

北の森林 国有林



北海道森林管理局



北の森に春を告げるヤチブキの花（遠別町）



国民の森林・国有林

地球を守る木 みんなの財産国有林



上右：山田局長から感謝状を受けるオホーツク森林づくりクラブ会長
 上中：同 山歩集団青い山脈会長
 上左：勝占東大雪支署長から伝達を受けるトムラウシ少年グリーンクラブ団長
 下右：同クラブには退団式で伝達されました



平成十年に北海道内初の森林ボランティア団体として発足。国有林内での植樹祭、育樹祭の開催、また、網走西部森林管理署西紋別支署と「ふれあいの森」の協定及び森林整備協定を締結し、積極的に森林の育成等に協力していただいています。

オホーツク森林づくりクラブ
 (紋別市)

三月十七日(月)、北海道森林管理局において「国民の森林づくり感謝状」贈呈式を開催しました。
 これは、『地域の国有林において、森林づくり活動などに積極的に取り組まれ、功績のあった方々に「国民の森林づくり感謝状」を贈呈する』こととして平成十八年度に要領を制定したもので、二回目の贈呈式となった今回は、次の三団体のみなさんへ感謝状をお贈りしました。

山歩集団青い山脈(福島町)

昭和六十三年発足。初級者の登山技術指導と併せた自然保護教育、大千軒岳地域での高山植物盗掘防止パトロール、歩道整備や清掃活動、地元小中学校での森林環境教育の実施など長年にわたり地域に根ざした活動を積極的に推進していただいています。

トムラウシ少年グリーンクラブ育成会
 (新得町)

昭和四十七年発足。長年にわたり国有林内での自然体験学習、植樹祭等へ積極的に参加。緑の募金活動、森林環境教育の積極的な実施。トムラウシ山での清掃登山、春・秋の市街地清掃活動の実施等、社会貢献活動を積極的に実施していただいています。

今後の各団体のみなさんの益々の御活躍をお祈りいたします。(保全調整課)

新庁舎の特徴



構造材は迫力ある
道産カラマツ大断面集成材



来庁者を出迎える
ウディーな正面玄関



正面玄関ホールは
管内5町村の木を内装に



地球環境に優しい
ペレットストーブ



床板は
ナラフローリング

天塩町の「赤レンガ造り」の町並みにと
け込む新庁舎



北海道産フェアウッドふんだんに

留萌北部森林管理署 新庁舎落成



式辞を読み上げる福澤署長

【留萌北部署】天塩町新栄通で新築工事を進めていた留萌北部森林管理署の新庁舎がこのほど完成し、3月14日（金）に落成式が行われ、木の香りあふれる建物が披露されました。

旧庁舎の向かいに建てられた新庁舎の外観は天塩町の「赤レンガ造り」の町並みにとけ込むレンガ調で、構造・内装材には北海道産のカラマツ、ナラなどのフェアウッドがふんだんに使われています。

朝10時から行われた式典には、管内町村をはじめ多数のみなさんの列席をいただき、福澤署長の式辞、山田北海道森林管理局長の挨拶に続き、来賓の浅田天塩町長より祝辞をいただきました。

今後は、この新庁舎を拠点に、留萌北部の国有林をしっかりと守り育てていきたいと思ひます。
(塚田 前総務課長)

森林づくり計画に活発な議論

地域管理経営計画等に関する懇談会



その後、座長からの「森林管理局には、各委員のご意見を十分に踏まえて、北海道国有林の管理経営に当たっていただきたい」とのコメントに各委員からも「異議なし」との声が上ががり、計画案及び変更計画案は了承されました。

○了承された計画案及び変更計画案

・地域管理経営計画等の計画案（石狩空知、上川北部、後志胆振の各森林計画区）

・地域別の森林計画の変更計画案（日高、留萌、十勝、渡島檜山の各森林計画区）

・地域管理経営計画等の変更計画案（日高、留萌、十勝、渡島檜山の各森林計画区）
(業務調整課)

三月十八日（火）、北海道森林管理局において、地域管理経営計画等に関する懇談会を開催しました。審議では、石井北海道大学名誉教授を座長に、計画策定の基本的な考え方である、「公益的機能の維持増進」、「美しい森林づくりの推進及び地球温暖化防止への貢献」、「生物多様性保全の推進」、「国民参加の森林づくり」の四項目に関する活発な議論が行われました。



雄阿寒岳と阿寒湖畔を望む



守り・育て・活用する森林管理

広大な道東の国有林を地域の皆さんと一緒に



根釧西部森林管理署

署長

吉田 朋 泰

根釧西部森林管理署長を拝命して一年が過ぎました。この道東の地での勤務は二十五年ぶりで、懐かしい思いや、当時からは大きく変わったものもある中で楽しく勤務させていただいています。

我が署は、北海道釧路支庁管内一市六町一村にわたる国有林野約十八万鈔を管轄し、これを十七の森林事務所で管理しています。なお、この広さは四国森林管理局の管理面積とほぼ同じです。

管内には、阿寒国立公園、釧路湿原国立公園、厚岸道立自然公園やラムサール条約登録湿地の別寒辺牛湿原、平成十八年度に人事院総裁賞を受

賞したパイロットフォレストがあります。このような環境の中で、最近特に考えることは「名称」というものについてで、我が組織は平成十一年三月に、これまで使われてきた「林業を営む」という意味の「営林」署を改め「森林管理」署となりましたが、一般の地域の方々には未だ



自治体と協働開催した植樹祭

になじんでいないことが気になっていきます。

我が署は明治四十一年に設立され、それなりに地域には知られている役所のはずが、地域の方々に聞いても営林署は分かっても森林管理署は分からないようです。

名称変更以降、管内各地域で開催される植樹祭や各種イベントに積極的に参加する中でこのことのPRに努めてきていますが、もう少し頑張らないと認知度は上がらないと感じ、赴任以来少しでも「森林管理署」という名称を普及させる事を考え、これまでの活動に加え、昨年末には、我が署の職員等が業務を通じて撮影し、蓄積してきた管内の

この報道記事を見た地域の方々からの問い合わせも多くあり、少しは森林管理署の名称が浸透した思いになりました。

今年度は、もう一歩進めて、退職の時期を迎えている「団塊の世代」の方々に森林へ来ていただくイベントや地域の小学生、漁協、農協に働きかけをする中で、森林づくりの体験ツアーなどを企画し参加を呼びかけ、森林管理署の事業や国有林について少しでも理解をしていただき、地域の方々「守り・育て・活用」できる森林管理署を目指していきたいと考えています。

この報道記事を見た地域の方々からの問い合わせも多くあり、少しは森林管理署の名称が浸透した思いになりました。

今年度は、もう一歩進めて、退職の時期を迎えている「団塊の世代」の方々に森林へ来ていただくイベントや地域の小学生、漁協、農協に働きかけをする中で、森林づくりの体験ツアーなどを企画し参加を呼びかけ、森林管理署の事業や国有林について少しでも理解をしていただき、地域の方々「守り・育て・活用」できる森林管理署を目指していきたいと考えています。

今年度は、もう一歩進めて、退職の時期を迎えている「団塊の世代」の方々に森林へ来ていただくイベントや地域の小学生、漁協、農協に働きかけをする中で、森林づくりの体験ツアーなどを企画し参加を呼びかけ、森林管理署の事業や国有林について少しでも理解をしていただき、地域の方々「守り・育て・活用」できる森林管理署を目指していきたいと考えています。

国有林が広がる奥尻島・利尻島・礼文島

北の島だより

離島の森林事務所に勤務し、島民のみなさんとともに森林を守り育てる森林官・主任たちから届いた話題を紹介します。



礼文島の雪原を走り回って楽しい1日

測量機器で宝探し&雪中アイス作り

礼文森林事務所



森林教室の最後は手作りアイスクリーム。おいしくって最高〜*^*~

【宗谷署】三月七日（金）に、礼文森林事務所の仕事について学びながら、楽しく雪の中で遊ぶ森林教室を開催しました。

当日は、まずネイチャー礼文の研修室で、森林官が冬場に行っている森林調査やそれに使う道具の説明などを行い、その後、香深井緑が丘公園へ移動し、雪上ネイチャーゲームというところで、測量機器を使った「宝探し」とアイスクリーム作りにチャレンジしました。

アイスは、ペットボトルに材料と、雪と塩を混ぜた「寒剤」を封入し、振り回したり転がしたりしながらヘトヘトになるまで雪原を走り回ること十五分。上手く出来上がっているか半信半疑でしたが、「これをアイスクリームと言わずして何という」ほど素晴らしい出来で、もちろん味もグッド！ 楽しく、あま〜い冬の思い出になりました。

（塩口 前 礼文森林官）

森林官が語る奥尻島の自然の魅力

知って得する奥尻島1日講座

奥尻森林事務所



【檜山署】三月二十日（木）、奥尻町海洋研修センターにて、奥尻島観光協会・奥尻島地域再生プロジェクト推進会議主催「知って得する奥尻島一日講座」が開催され、私も講師の一人として参加しました。

奥尻町は北海道南西沖地震から十五年を迎え、新たに「食と自然が豊かな観光の島」として出発しようとしており、その観光プロジェクトの一環として、島民が島の魅力を改めて認識し、島の観光産業に関心を持ってもらおうということで今回の講座が開かれました。

私は奥尻の森に咲く花や森に住む動物などを写真で紹介しながら、島の自然の魅力と、その魅力をどう観光振興につなげるかということをお話しました。

終了後、「花が好きなのでとても楽しかった」、「森に行ってみたくなった」と声をかけてくださる方もいて、島の自然が持つ楽しさや美しさが、みなさんに伝わったようです。

これからも奥尻町の方々と一緒に、島の自然を観光に活かす取り組みを進めていく中で「観光資源としての森林」の価値を高めていくことができればと考えています。

（高見 奥尻森林官）



情報を集めています
野幌の生物多様性
石狩地域森林環境保全
ふれあいセンター

林内に続く太い鹿道（北広島）
 当センターと野幌森林事務所では、エゾシカ痕跡調査の10日ほど前に南隣の北広島の国有林内でエゾシカの越冬地と思われる場所を確認しており、これとの関係も含め、さらに注視していきたいと思っています。



クマゲラの食痕
 残念ながら今回はクマゲラに出会うことができませんでしたが、新しい食痕をいくつか見つけました。

当センターでは、野幌森林再生プロジェクトの一環として、平成十九年度から市民団体等と連携した生物多様性に係る情報収集に力を入れています。

三月九日（日）、「野幌森林公園を百区画に分割し、それぞれを「クマゲラを守る会」主催によるクマゲラ一斉調査が行われ、石狩森林管理署とともに参加しました。

これは、一九八七年から継続されているもので、同園を百区画に分割し、それぞれを「クマゲラを守る会」主催によるクマゲラ一斉調査が行われ、石狩森林管理署とともに参加しました。

森林環境保全 ふれあいセンター

通
信

森林環境保全ふれあいセンターは、国有林をフィールドとした自然再生や生物多様性の保全、森林環境教育などの活動を支援しています。

それを調査しクマゲラやその痕跡を探すというものですが、残念ながら今回はクマゲラと出会うことはできませんでした。

三月二十日（木）には、酪農学園大学と合同でエゾシカの痕跡調査を行い、歩道と林道をほぼ全部歩きましたが、痕跡は全く確認できず、積雪期の野幌にはエゾシカはおらず、他への移動が推察されました。

今後より多くの情報を収集しながら野幌国有林の現状を多面的に認識し、このプロジェクトを進めたいと思います。

（豊田 自然再生指導官）

三月十八日（火）、地域におけるみどりの環境づくりの推進について話し合う、「釧路支庁みどりの環境づくり地域会議」が開かれ、国、道、市町村及び十二の市民団体が出席しました。

当センターからは自然再生事業と森林環境教育の取り組みについてのPRを行い、「雷別地区自然再生事業」の概要、この事業が地



市民参加型の活動
自然再生事業をPR
釧路湿原森林環境保全
ふれあいセンター

域のみなさんと一緒になった取り組みであること、また、この実施個所を森林環境教育の場として活用するプログラムを検討していること等について説明しました。

引き続き行われた各団体の活動紹介でも、平成十九年度に取り組んだ森林環境教育と自然再生について発表し、「総合学習における森林環境教育の進め方」として、小学校と当センターが協力し「地球温暖化と森林」のテーマで行った授業や釧路支庁と連携し学校環境緑化事業モデル校での木工教室、自然再生事業の取り組みとして市民参加を進める方策の一つである「雷別ドングリ倶楽部」の活動内容等の紹介を行いました。

（白藤 自然再生指導官）

引き続き行われた各団体の活動紹介でも、平成十九年度に取り組んだ森林環境教育と自然再生について発表し、「総合学習における森林環境教育の進め方」として、小学校と当センターが協力し「地球温暖化と森林」のテーマで行った授業や釧路支庁と連携し学校環境緑化事業モデル校での木工教室、自然再生事業の取り組みとして市民参加を進める方策の一つである「雷別ドングリ倶楽部」の活動内容等の紹介を行いました。

（白藤 自然再生指導官）



大沼自然再生モデル
ボランティアで間伐
駒ヶ岳・大沼森林環境保全
ふれあいセンター

三月十七日(月)、大沼地域自然再生等モデル事業の「多様性のある森林への再生」個所(吉野山国有林)において、「大沼自然豊かな森づくり協議会」の主催による、トドマツ人工林の保育間伐を実施し、森林ボランティア団体から三十五名が参加しました。

作業地のトドマツは昭和五十七年に植えられ、胸高直径は八〜十六センチで、参加者のみなさんは安全に配慮しながら、チェーンソーや手鋸で一本一本ていねいに伐倒・枝払いなどの作業を行いました。

時折小雨が振るあいにくの天候でしたが、参加者の熱意(多様性のある森林への誘導という目標)の下、無事に全作業を完了することができました。

終了後には、協議会から手作りの力うどんが振る舞われ、参加者は来年度の意気込みなどを話しながら、エネルギーを補給し、和気あいあいと春の一日を終えました。

(窪田 自然再生指導官)



相内中のみならずスキー散策
アカゲラと遭遇!
常呂川森林環境保全
ふれあいセンター

三月七日(金)、北見市立相内中学校三年生のみなさんと相内林道でスキーで森林散策を行いました。これは、同中学校からスキー授業の集大成として、森林の中をスキーで歩きながら森の話が聞きたいとの要望があり実施したもので

す。当日は、一・五kmほどをゆつくりと時間をかけて進みながら、冬の森林についての解説を行いました。道中では、木々は夏から秋にかけて冬芽を作り春の芽吹き準備をしていることや、冬芽の葉痕を観察し

樹種ごとに特徴があることを学んだり、エゾシカの足跡を見つけたのをきかっけに、エゾシカの増加による農林業被害の拡大とやむなく行われている頭数調整について考えた。保安林の看板の前では、保安林の役割とその機能を維持するための伐採規制等があることなども学び



うまく命中するかな?

また、熊の爪痕やエゾユキウサギ、ネズミの足跡を発見したり、ドラミングするアカゲラの姿も見ることができ、生徒のみなさんは、声を発するのも忘れて見入っていました。

短い時間ではありましたが、ドラマチックな自然の営みを実感する森林散策となりました。

その後は、グループに分かれて林間コースをそれぞれに体力に合わせて滑り、心地よい汗を流しました。

そして、最後に弓を使った的当てゲームも行い、全員が狙った的を射ることができ、気持ちよく授業を締めくることができました。

(栄 自然再生指導官)



早春のまぶしい光の中で森林教室 春を探して森の中へ



【日高北部署】三月八日
(土)、地域に根ざした取
り組みとして日高町字日高
の国有林で冬の自然観察会

を開催しました。
四年目となった今回はル
ートや距離を変更し、気分
も一新、管内各地から親子
連れなど二十
六名が参加
し、ガイドは
富良野市在住
の写真家、石
黒誠氏にお願
いしました。
参加者のみ
なさんは大半
がリピーター
で、この催し
をとても楽し
みにしていた
とのことで、
早速スノーシ
ューを履き、
雪原に残るキ



スノーシューで森林を探検しよう ウサギの足跡を追いかけたよ

日高町で観察会

ツネ、エゾクロテン、ウサ
ギなどの足跡から彼らの行
動を想像したり、エゾマツ
やトドマツの違いや、カッ
ラの萌芽の様子を観察しな
がら、二時間半ほどの雪上
トレッキングを楽しみまし
た。
午後からは、石黒さんが
撮影した美しい冬の自然
や、散策では見られなかつ
た動物のかわいらしい姿を
鑑賞しました。
また、冬の自然観察で使
われる道具も紹介し、特に、
アザラシの毛が張られたゾ
ンメルスキーには、みなさ
ん興味深そうに触っていま
した。
(佐野 幌尻森林官)

【石狩署】三月五日(水)、
野幌国有林で、当署と石狩
地域森林環境保全ふれあい
センターでは指定障害福祉
サービスマスターによる通

カンジキウォーク 五感で森林を楽しもう



雪に記された動物の足跡を観察中
所者のみなさんと「カンジ
キで雪上を歩き、見て・触
れて・聴いて・嗅いで森林
を感じよう」をテーマに「カ
ンジキウォークと冬の森林
観察」を行い、
観察を行い、
木々の香り、
小鳥のさえず
りなどにたっ
ぷりと五感で
触れて楽しん
でもらいまし
た。
当署では、
今後このよ
うな支援を続
けていきたい
と考えていま
す。
(杉村 流域
管理調整官)

歩くスキーで森の中へ
エゾシカの冬の生活調べたよ

上士幌町・糠平小



【東大雪支署】三月五日
(水)、上士幌町糠平の国有林において、NPOひがし大雪自然ガイドセンター主催、当支署後援で自然観察会を開催しました。
これは身近な自然への興味と関心を深めようと同町立糠平小学校のみなさんと行ったもので、まだ雪深い学校近くの森へ歩くスキーを履いて入りました。
林内では、エゾシカの冬の過ごし方について、食べ物、水、すみかにスポットを当てて観察し、その足跡

をたどって、すみかは比較的積雪の少ないトドマツの下、食べ物はずさ、水は川で飲んでいいることなどを学びながら、普段立ち入ることのない冬の森林の世界を満喫しました。
子どもたちは「今度はもっと遠くまで歩いてみたい！」と話し、とても楽しかった様子でした。
これからも、みなさんが身近な自然とふれ合う機会をお手伝いしていきたいと思っております
(赤坂森林ふれあい係長)

さあ、スキーを履いたら森へ出発だ！



ネイチャーゲームも楽しみました



え〜ここ滑るの？
ちょっと怖いけど、大丈夫かな〜？



あれ何だと思っ？

芽生えにそなえるころ
森には何があるのかな？

遠別町・遠別小4年生



森林インストラクター松竝さんのユーモアあふれる説明にみんな興味津々

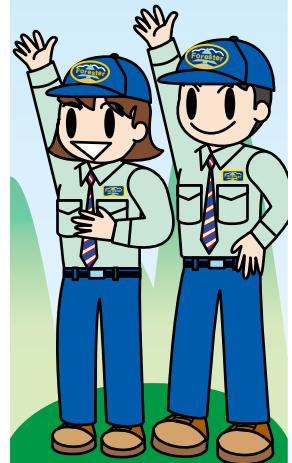
【留萌北部署】三月六日
(水)、遠別町立遠別小学校の元気いっぱいな四年生のみなさんと、スノーシューを履いて町内の富士見ヶ丘森林公園へ早春の森の様子を観察に出かけました。
当日は風もなく穏やかな天気、いつもはひっそりと静まりかえっている森も今日だけは子どもたちの歓声

でとても賑やか。
当署のOBで森林インストラクターの松竝善司さんの案内で、雪の上でも沈まない「秘密兵器」を履いたみなさんは、動物たちの足跡を追いかけたり、木々の冬芽を観察しながら、北の森に近づく春の気配を一生懸命探していました。
(大谷業務第一課長)

森林官 リレー

野幌森林公園の8割は国有林！

開拓時代から大切にされてきた森を
みなさんと一緒に守っていききたい



石狩森林管理署
野幌森林事務所
森林官
妻鳥 洋年

野幌森林公園は、広大な石狩平野のほぼ中央の野幌丘陵にあり、江別市・北広島市にまたがる、

大都市に隣接した平地林として世界的にも大変貴重な森林で、その面積の約八割、一六〇三ヘクタールが「国有林」で

あり、野幌森林事務所が管理しています。

ス キーで間伐調査

現在、当事務所では人工林において、立木と下層植生の成長を促すことを目的に間伐の調査を実行中で、春の暖かな日差しの中で、清々しい気分で作業を進めています。

四季を通して

林内には多くの散策路があり、様々な花・野鳥の観察、森林浴、歩くスキーと、年間を通して多くの方々に利用されています。

また、都市近郊でありながら、エゾフクロウやクマゲラなどの野鳥や、「昭和の森のクリ」などの巨樹・巨木を見ることが出来ます。



野幌の森で集めた木の種から苗木を育てる子どもたち

各コースには案内板などを整備し、ピクニックセンターである「森の家」では、クラフト教室などのイベントを通じ「国有林」としての情報発信にも努めています。

体験・学習活動の場

この地域にある江別市立野幌小学校とは、「遊々の森」の協定を結び、この森で集めた種から苗木を育



間伐調査を実行中です

て、森林づくりを進める活動をしています。この他にも一年を通して様々な体験・学習会が行われています。

よみがえれ！野幌の森

この森は平成十六年の台風で大きな風倒被害を受けましたが、市民の皆さんと協働し、この森林を再生する「野幌森林再生プロジェクト」が進められています。

この他にも外来種の侵入、野生化したアライグマによる生態系破壊など、多くの課題を抱えています。が、北海道開拓の時代から守られてきた野幌国有林の歴史を振り返りながら、地域のみなさんと共に野幌の森づくりをしていきたいと思っています。



野幌国有林のスタッフ（本人中央）

野幌森林事務所

- 江別市文京台南町8-7
- 電話011-386-0304

紹介します

北海道森林管理局

総務部長

木下喜博



昭55・4 農林水産省人省

平元・4 加治木営林署長

平8・4 帯広営林支局

業務部 指導計画課長

平12・4 北海道森林管理局

計画部 調査官(函館分局)

平13・8 北海道森林管理局

業務管理官(事業担当北見分局)

平15・4 近畿中国森林管理局

森林整備部長

平18・4 林野庁業務課

国有林野総合利用推進室長

平19・4 林野庁業務課

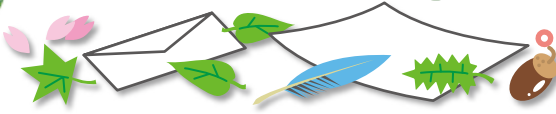
国有林野管理室長

平20・4 現職

平20・4 現職



各地からの便り



道南スギをブランド材に



【函館事務所】3月4日、渡島支庁で「道南の林業・木材産業を考える集い」が開催されました。

これは、道南スギ等を主体とした渡島半島の木材をブランド材としてどのように売り出していくのかを考えることを目的に行われたもので、山田北海道森林管理局長が「日本林業の再生と森林認証」について、松本紋別市産業部長が「網走西部流域におけるSGEC認証の取組」について講演を行いました。

白老の自然を次代に伝えていこう！



【胆振東部署】3月25日、白老町の総合保健福祉センターで白老町役場と共催で第17回白老森林フォーラムを開催しました。

今回は洞爺湖サミットを見据え、当署の東本流域管理調整官による「地球温暖化に対する森林の果たす役割」についての講演、ポロト自然休養林のネイチャーガイド団体である「めむの会」による活動報告とポロト湖周辺の四季、植物などの紹介、白老山岳会による活動報告と白老にある数多くの優れた自然の紹介がありました。

会場ではプロジェクターを通してビデオや写真で白老町の自然が鮮やかに映し出されると、参加者からは歓声があがっていました。

森林ボランティアオホーツクの会誕生

【常呂川森林環境保全ふれあいセンター】

3月9日、北見市緑のセンターで森林ボランティア「オホーツクの会」の設立総会が行われ、新たな森林づくり活動への第一歩を踏み出しました。



同会は「森林との触れ合いを楽しみながら、森林への理解を深め、森林づくりの手助けを行い、森林を愛する仲間の輪を広げていくこと」を原点とし、今後はボランティア植樹、自然再生モデル事業、北見市植樹祭への参加や森林散策会などを実施していくことにしています。

幌南小学校と「遊々の森」協定

【石狩署】3月13日、札幌市内初となる「遊々の森」協定を幌南小学校と締結し、藻岩山自然観察教育林内に「幌南の森」を設定しました。



同小学校の渡辺校長は「この森での活動を通じて子どもたちの生きる力を育みたい」と話し、当署でもできる限りの支援協力をしていくことにしています。

お知らせ

増えていく街のみどりと みんなの笑顔
今年も緑の募金が始まりました！



皆様のご協力は「緑の募金」を通して、身近な地域や国内外の森づくりにつながり、さまざまな「森づくり・人づくり」活動の活性化に活かされます。

より多くの皆様「緑の募金」への参加が得られ、国民全体で

森林を守り育てる運動として発展できますよう、ご理解ご協力をお願いいたします。

平成20年度 募金期間

- ・春期 4月1日～5月31日
- ・秋期 9月1日～10月31日
- ・北海道洞爺湖サミット記念緑化募金(平成20年限定) 6月1日～7月9日

山火事は地球の未来も燃やします

林野火災危険期間4～6月

森林は一旦火災などで失われると、その大切な機能が回復するまでには何十年もの年月と多大なコストを要することになります。

山火事のほとんどは、人間の不注意によって起きています。このことは、私達一人ひとりが火の取扱いに注意することで山火事を未然に防止できるということでもあります。

かけがえのない貴重な森林を守るため、皆様のご協力をよろしく願います。



文字が大きく見やすくなりました！



今月号からより見やすい紙面とするために、文字サイズを10.5ポイントに拡大するとともにフォントも変更しました。

今後もより良い紙面作りを目指していきます。

(保全調整課)



ミズナラの巨木の前に元気な子どもたちと芽森ちゃん

平成十八年八月に後志森林管理署黒松内森林事務所による調査で見聞された、「北海道一大きなミズナラ」の見学会を同署・後志支庁・CLUB「風のがっこう」・寿都町の共催により三月二十二日(土)に開催しました。今回は小学生を対象とした見学会として、町内の小学生と

父母ら五十名が参加し、このミズナラの巨木を囲みながら、森林について勉強しました。参加した子どもたちは、目を輝かせながら、同森林事務所松本首席森林官や、CLUB「風のがっこう」代表 蛭澤隆彦氏の説明に聞き入っていました。

また、後志支庁後志森づくりセンターによる森林×クイズでは、第五十八回全国植樹祭のマスコットキヤラクター「芽森(めもりー)」も現れ、参加した子どもたちは大喜びでした。今後も、国・道・民間・町とが連携し、植樹活動やミズナラの巨木や北限のブナ群の見学会の開催、また、風力発電の売電益を利用した、民・官・学との協働による森林保全・環境維持活動「風と森と海のまちづくり」を実践していきたいと考えています。

(寿都町役場 産業振興課)

広報「北の森林 国有林」4月号 No.95

発行 北海道森林管理局

編集 保全調整課

〒064-8537 札幌市中央区宮の森 3条7丁目70

I P 電話 050-3160-6274

電話 011-622-5231

F A X 011-622-5235

<http://www.hokkaido.kokuyurin.go.jp/kyoku/>

点施設オープン
斜里町ウトロ

▽五月九日(金)

知床ボランティア活動拠点施設オープン

「緑の募金」街頭募金
札幌三越前

▽四月二十六日(土)

記者発表
局 中会議室

▽四月十八日(金)

北海道国有林の取組事項

EVENT INFORMATION

行事・イベント情報